

1 日時(場所) 令和元年10月16日(水) 1校時 8:50~9:40 (3年D組教室)

2 個人研究テーマ

積極的に英語でやり取りを行う生徒の育成 ~リテラチャー・サークルの実践を通して~

3 研究テーマ設定の理由

自分の考えなどを相手に分かりやすく伝えたり、相手の考えを聞いて即興でやり取りをしたりするという「話す活動」を様々な場面で繰り返し行っていくことで、生徒は「自分の英語が通じた」という実感を持ち、学ぶ意欲も向上していくだろう。そのような主体的に生徒が英語でやり取りする力を養うには、リテラチャー・サークル活動を取り入れることが効果的だと考える。リテラチャー・サークルとは、物語などの長文を読む際に、生徒たちは小グループになり、それぞれがそのグループで異なった役割を果たしながら、英文の内容について語り合う活動である。1グループ4人で行い、「イラストレーター」「サマライザー」「クエスショナー」「コネクター」の役割に分ける。「イラストレーター」は本文の内容や要点をイラストで描くことで視覚化し、英語で説明する。「サマライザー」は内容を要約する。「クエスショナー」は内容に関する質問を作る。「コネクター」は物語と自分の身近な出来事・経験・世の中とのつながりなどの関連した内容について話をする。「話すこと[発表]」と「話すこと[やり取り]」の効果的な指導と、生徒が積極的に英語でやり取りを行おうとする意欲の向上につながる指導を行うことで、生徒は自信を持って自分の気持ちや考えを表現し伝えることができると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計 (単元名: Chapter 3 Lesson 5 Stevie Wonder -The Power of Music)

(1) 単元目標

- 主格の関係代名詞 (who, which, that) を用いた文の構造や意味を理解し、「~する… (人、もの、こと)」と話したり書いたりすることができる。 (知識・技能)
- 世界で活躍する人の半生を級友に説明し、その発表に正しい英文で質疑応答をしたり、正しい英文で自分の意見や考えを書いたり述べたりできる。 (思考・判断・表現)
- 級友の発表を聞いて、コメントを述べたり質疑応答をしたり、わからない語句があったとしても粘り強く英語を用いてやり取りをすることができる。また、自らの現状を正しく振り返り、次時の活動ではより高いレベルを目指そうとする姿勢を持つことができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 (第3学年 Chapter 3)

話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと	聞くこと	読むこと
尊敬する人に関するスピーチに対して、感想を述べたり質疑応答をしたりすることができる。	尊敬する人について、その人の魅力や自分の考えが伝わるようにスピーチをすることができる。	尊敬する人物について、自分との関わりをふまえて10文以上のまとまりのある英文を書くことができる。	世界で活躍する人の説明を聞いて、その内容を理解することができる。	国際協力、世界の問題、「ことば」に関するスピーチ文などを読み、要点や情報を正確に理解することができる。

【本質的な問い】

積極的に英語でやり取りを行うにはどうすればよいか。

【永続的な理解】

積極的に英語でやり取りを行うためには、二つの視点が必要である。一つ目は、相手の発表内容に興味を持ち、アイコンタクト、うなずき、ジェスチャー、イントネーションなどのコミュニケーションスキルを活用してやり取りすることである。二つ目は、関連した内容を既存の英語を用いて考えを主張したり、質問したり、感想を述べたりすることである。やり取りのために6W1Hを意識したり、コミュニケーションの型を活用したりすることが大切である。

(2) 総括的評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは海外に留学しており、外国人の友達から「日本人で一番尊敬する人は誰ですか。それはどうしてですか。」と聞かれました。聞かれたことにあなたはどのように答えますか。その友達があなたのスピーチを聞いて、「あなたの言いたいことがよく伝わったよ。」と言ってもらえるように、あなたが一番尊敬する日本人についてスピーチをしましょう。スピーチの中に、人と物に関することを入れ、主格の関係代名詞の who, which 又は that を用いて詳しい説明をしましょう。また、説明の後で、友達が質問をしますので、準備してその質問に答えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ○課題追究状況の観察 ○振り返り小テスト ○リテラチャー・サークルの各役割のワークシート ○ルーブリック評価表 ○ロイロノートで提出した録音がされている動画 ○世界平和に関する考えを書いたワークシート ○実力テスト

[パフォーマンス課題の予備的ルーブリック]

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	関係代名詞 who, which もしくは that の用法を含み、適切に使用できている。	尊敬する人物について、理由や自分との関わりが述べられており、文法の間違いなく、わかりやすい順序で述べられており、聞き手が理解できる。	英文が 15 文以上で構成されており、友達の質問には 2 文以上の適切な英語で答えることができる。
B	関係代名詞 who 又は which のどちらかの用法を 1 つ含めて使用している。	尊敬する人物について、その理由が述べられており、やや文法の間違いがあるものの、聞き手が内容をおおまかに理解できる。	英文が 10 文以上で構成されており、友達の質問には 1 文の英語または日本語で答えることができている。
C	(支援) 関係代名詞 who, which の具体的な使用例を示すことで、どのように使用すれば良いか考えるよう助言する。	(支援) 英文を聞き取りやすい順序で発表しているか、アイコンタクトを取りながら、ゆっくりはっきり言えているかを確認させる。	(支援) スピーチの型やコメントの例文を示すことで、英文を書いたり、質問の答えを言ったりしやすくさせる。
自立と共生の力 <ul style="list-style-type: none"> ○物事を多様な観点から捉え、問題の本質を見抜く力 ○解決の過程や結果を振り返って修正・改善する力 ○多様な価値観を認める力 			

※ A : 単元終了時までには到達させたい理想的な状態 B : 単元終了時までには到達させたい合格ライン
 C : B に至らない生徒への具体的な支援の方法

(3) 指導計画 (全 9 時間)

次	時数	主な学習内容	知	考	態	◇評価規準
1	1	主格の関係代名詞 who, that	◇			◇主格の関係代名詞 (who, which, that) を用いた文の構造について理解し、「～する…(人、もの、こと)」と話したり書いたりすることができる。(知)
2	1	主格の関係代名詞 which, that	◇			
3	3	スティービー・ワンダーの半生の英文を読み、理解する。		◇		◇スティービー・ワンダーの半生の英文を読み、その内容を説明できる。(考)
4	2 本時 その2	スティービー・ワンダーの半生の英文を読み、学んだことを発表しよう。		◆	◆	◆スティービー・ワンダーの半生を級友に説明することができる。その説明に対し、正しい英文で質疑応答することができる。(考) ◆級友の発表を聞いて、積極的にコメントを述べたり質疑応答をしたりしている。(態)
5	1	“We are the world for Haiti.” を聴いて、世界平和について考える。		◆		◆世界平和に関する自分の意見や考えを正しい英文で書いたり述べたりできる。(考)
6	1	パフォーマンス課題	◆	◆	◆	◆総括的評価(知・考・態)

※◇…指導に生かすための評価 ◆…指導後の生徒の状況を記録するための評価

5 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

「英語の授業で自分の自信のある活動は何か。(複数回答可)」との9月のアンケートに、3年生1クラス(40名)は、「読む活動」が62%(25名)、「聞く活動」が25%(10名)、「話す活動」が17%(7名)、「書く活動」が12%(5名)であった。同じクラスで昨年度の4月にアンケートをしたところ、「読む活動」が37%(15名)、「聞く活動」が37%(15名)、「話す活動」が18%(7名)、「書く活動」が23%(9名)であった。昨年度同様、「話す活動」や「書く活動」といった表現活動に課題があることが分かった。その一方で、「どの力を伸ばしたいですか。(複数回答可)」とのアンケートに、「聞く力」が55%(22名)、「話す力」が55%(22名)、「読む力」が12%(5名)、「書く力」が42%(17名)であった。相手の言うことを聞き取り、それを踏まえて自分の考えを話したいという意欲が高いことがわかる。本単元を通して、英語を使い理解したことを伝えたり、質問したり、感想を述べたりすることで、自分の話す英語が伝わることの楽しさを実感させ、英語の学習に主体的に取り組む態度を養っていきたい。

(2) 単元について

3年生の教科書の内容は、環境問題、国際貢献をした日本人、世界平和などのテーマが取り上げられ、生徒はこれらの学習を通して、外国を身近なものとして感じ、世界の諸問題に目を向けることができる。本単元は、スティービー・ワンダーの伝記であり、時系列で物語がまとめられている。視力を失った幼少期、デビューした青年期、自動車事故に遭い同じように困難を抱えた人を救う活動をし始める壮年期などの内容が書かれており、最後に物語から得られる教訓やメッセージがある。6W1Hを意識して文章を読めば、内容を効果的に読み取ることができる。本単元を通して、次の2点の学びを保障したい。一つ目は、主格の関係代名詞(who, which, that)を用いた表現の定着である。関係代名詞を用いて説明をつけ加えていくことで、相手に物事を詳しく伝えることのできる表現力を身に付けさせたい。二つ目は、思考力・判断力・表現力の向上である。思考力とは、スティービー・ワンダーがどのような半生を送ったのか、聞き手に分かるように、論理的に筋道立てて話すことを考えることのできる力である。判断力とは、発表内容から適切な視点で感想を述べたり質疑応答をしたりすることのできる力である。表現力とは、文法的に正しい英文を言ったり、ジェスチャーやアイコンタクトなどを用いたりして、相手に分かりやすく伝えることのできる力である。グループでの学び合いを通して、様々なまとめ方があることや、級友の表現の良さに気付かせることで、思考力・判断力・表現力が高まると考える。話が膨らんだり考えが引き出されたりすることによって、思考を深め互いに協力し、対話を継続・発展させていけるようにしたい。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

生徒はスティービーが盲目で生まれた理由など教科書に書かれていない知識も学んでいる。スティービーがアパルトヘイトに反対する歌を政府による弾圧を受けてまでどうして歌い続けたのかなど歌手活動を通して世界平和を目指した理由や生徒が自分自身どのように世界平和に貢献していくかという考えを英語で発表することが深い学びにつながると考える。そのために、英語で話す力が必要であり、「話す活動」を授業で継続的に行っている。授業の最初に帯活動で、6W1Hを意識した「問答ゲーム」を継続して行っている。また、2年生の時には、単元のまとめとして、本文内容のリテリングやそれに関する自分の考えを述べる、それに対して英語で質疑応答のやり取りをするという活動を行ってきた。3年生では、まとめの活動でリテラチャー・サークルを指導している。今回は3回目である。1回目は、環境問題の読み物資料で行い、2回目は、Lesson 4で行った。過去2回は、英語で自分の役割の内容をまとめることができていたが、調べた内容をただ読み上げる状態であった。また、感想を言い合ったり質疑応答をしたりはしていたが、沈黙が続いたり一部日本語で話したりする場面も見られた。そこで、同じ役割の生徒同士で集まり、話す内容を確認させることで、他の生徒の良いところを自分の発表にも生かそうとする姿勢を持たせたい。また、話すことに関しては、“Useful Expressions”のワークシートを与えている。感想やコメントを言う場面や質疑応答の場面でどのように言えばよいかを示したワークシートを与えることで、まとめの話し合いやリテラチャー・サークルの振り返りを英語で行うことをより活発にさせたい。今回は事前に、“Useful Expressions”や自分の発表内容の音読練習をしている。聞き手が理解できるように話すことや相手の話を踏ま

えて質問や感想を述べることなどを意識させ、やり取りが積極的にできる力を育成したい。

6 本時の指導 (7/9 時間)

(1) 主 題 スティービー・ワンダーの半生の英文を読んで、学んだことを発表しよう。

(2) ねらい

○級友の発表を聞いて、積極的に感想を述べたり質疑応答したりすることができる。

○既習表現を用いて、自分の意見や考えを適切に表現することができる。

(3) 展 開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫◇◆評価 (方法)
1 英語で問答ゲームを行う。 (ペア)	4	○What do you think about the song of "We Are the World"?のテーマで話そう。 ・ I think it's a good song. I have two reasons. First, I think some of the people around the world have listened to the song. Second, I think many singers sang it to help people who had difficulties.	○相手にわかりやすく伝えるために、6W1Hを意識したり、結論を先に言ってから理由を述べたり、相づちやつなぎ言葉を用いたりさせる。
2 英語の歌を歌う。(一斉)	6	○ "We Are the World" を歌う。	○歌を歌うことで、学習意欲を高めさせる。
CAN-DO We can exchange our thoughts about Stevie Wonder's life.			
3 本文内容を理解する。 (一斉) ↓ (グループ) ↓ (全体)	34 (6) (7) (7) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (4)	○本文内容を一度読み、内容を大まかに理解する。 ○前回のリテラチャー・サークルの原稿を読み、良かった点・改善したい点を確認する。 ○同じ役割で集まり、自分の役割の内容を確認する。 ○サマライザーが要約を説明する。 ○イラストレーターがイラストを説明する。 ○クエスチョナーが質疑応答をする。 ○コネクターが自分の経験を話す。 ○まとめの話合いを行い、単元を通して感じたことを話し合う。 ○全体で感想を共有しよう。 ・ I think Stevie is a great musician. ・ I want to make people happy, too. ・ Stevie helped people who had difficulties. I want to try that, too.	○前単元時の発表や質疑応答を振り返り、発表の良いイメージを持たせるために、評価規準表を確認させる。 ○論理的に思考し、表現できる力が発揮できるよう、発表するとき、話す順序、キーワードや6W1Hを意識させる。 ◆積極的に感想を述べたり質疑応答をしたりしている。 (観察・ロイロノート) ◆既習表現を用いて、自分の意見や考えを適切に表現することができる。 (ワークシート・ロイロノート)
4 本時の学びを振り返る。 (個人) ↓ (全体)	6	○本時の CAN-DO やリテラチャー・サークルでの学びについて振り返る。	○評価規準表を用いて振り返りを行わせることで、次の自己表現活動への意欲を持たせる。
授業研究の視点	○リテラチャー・サークルを行うことは、生徒の表現力を高めたり、やり取りを活発にさせたりするものとなったか。		

リテラチャー・サークルに取り組もう。

リテラチャー・サークルとは？

ある程度のまとまった分量の英文を読み、その内容について小グループで話し合う学習者主導の話し合い活動のこと。グループ一人ひとりに異なる役割が与えられる。それぞれの役割に応じた読み方や話し合い活動の準備を行う。

Summarizer	要約の作成（2分）
Illustrator	内容の視覚化・その説明（2分）
Questioner/Discussion Director	質問リストの作成（2分）・話し合いの主導
Connector	自分の経験や社会の出来事等との関連性の発見（2分）

さらに詳しく・・・

Summarizer

サマリーを用意し、言えるようにする。サマリーには、キーポイント、メインとなるハイライトなどが含まれるようにしましょう。

Illustrator

よい読み手は読んでいいる際に頭の中に絵を描いている。自身のイメージや洞察力を共有するチャンス！読み物に関連する絵を描きましょう。

読み物の中の出来事、自分が思い出したことや考えなどをスケッチ、マンガ、図表、フローチャートなどで描きましょう。

Questioner/Discussion Director

メンバーが話の重要な点について話し合うことを手助けしたり、意見を共有したりする。

質問は地震の考えや感情、関心に基つき作ろう。

司会を行い、グループのメンバーが英語で意見を言いやすいようにしましょう。

Connector

読み物と自分自身、読み物と世の中などの間につながりを見つける。

つながりを見つけるときには、自身の経験、学校や社会での出来事、ニュースなどからの話、よく似た出来事・イベント、他の人や他の問題について思い出したことを参考にしましょう。

Let's start Literature Circles !!

① First, please summarize today's reading part.

<Summarizer の presentation>

終われば、Thank you, 名前.

② Next, illustrator, please.

<Illustrator の presentation>

終われば、Thank you, 名前.

③ Next, I'll ask some questions of you.

<Questioner の presentation>

④ Next, connector, please.

<Connector の presentation>

終われば、Thank you, 名前.

⑤ Everyone, what do you think of this topic?

Please give us some comments and questions. Let's share our thoughts.

(もし誰も言い出さなかったら、順番に全員言ってもらおう)

名前,please.

⑥ How about today's literature circles?

Please tell some comments each other.

(もし誰も言い出さなかったら、順番に全員言ってもらおう)

名前,please.

⑦ Thank you for your comments.

Today, you tried your best! Keep it up, next time!